

- 川崎ナナ, 伊藤さつき, 早川堯夫: “糖鎖科学の新展開”, 谷口直之・伊藤幸成監修, エヌ・ティー・エス, 東京 (2005), pp.69・75
- 川崎ナナ: “未来を拓く糖鎖科学”, 永井克孝監修, 金芳堂, 東京 (2005), pp.20・21
- 川西 徹: “物理系薬学 . 化学物質の分析”, 日本薬学会編, 東京化学同人, 東京 (2005), pp.222・229
- 合田幸広: “健康・栄養食品アドバイザー・テキストブック (第4版)”, (独) 国立健康・栄養研究所監修, 山田和彦・松村康弘編著, 第一出版, 東京 (2006), pp.112・117
- 合田幸広: “スタンダード薬学シリーズ3 化学系薬学 . 自然が生み出す薬物”, 日本薬学会編, 東京化学同人, 東京 (2005. 10), pp.112・113
- 川原信夫: “漢方処方の方収載と品質評価”, 薬用植物・生薬開発の新展開, シーエムシー出版, 東京 (2005), pp.89・102
- 飯田 修, 香月茂樹, 河野徳昭, 川原信夫, 木内文之, 熊谷健夫, 佐竹元吉, 柴田敏郎, 鈴木幸子, 関田節子, 菱田敦之, 淵野裕之, 吉松嘉代: “薬用植物 栽培と品質評価 Part 11”, 薬事日報社, 東京 (2005)
- 鹿庭正昭: “シックハウス対策の最新動向 - 環境設計・測定・治療 -”, 吉田弥明監修, 井上雅雄・藤田清臣編, 株式会社エヌ・ティー・エス, 東京 (2005), pp.304・323
- 鹿庭正昭: “ゴム試験法 第3版”, 日本ゴム協会編, 丸善株式会社, 東京 (2006), pp.435・466
- 迫田秀行: “表面・界面工学大系 [下巻] 応用編”, 第1編 応用技術 第11章 生体適合材料に関する表面・界面技術 第3節 生体材料の表面改質《3・2》「ポリエチレンの耐摩耗化」, 編集顧問 本多健一, 株式会社テクノシステム, 東京 (2005), pp.211・213
- 米谷民雄: “栄養・食糧学データハンドブック”, 食品添加物, 1. 種類と用途, (社) 日本栄養・食糧学会編, 同文書院, 東京 (2006), p.400
- 米谷民雄: “家庭の安全・安心 - 暮らしの危機管理マニュアル -”, (財) 全国危険物安全協会発行, 時事通信社発売, 東京 (2006), pp.241, pp.242・243, pp.245, pp.260
- 米谷民雄, 長岡(浜野)恵: “食品検査とリスク回避のための防御技術”, 化学的リスク総論, 有害金属, 伊藤武・川本伸一・杉山純一・西島基弘・米谷民雄編, シーエムシー出版, 東京 (2006), pp.197・204, pp.229・240
- 佐々木久美子: “栄養・食糧学データハンドブック”, 日本栄養・食糧学会編, 同文書院, 東京 (2006), pp.397, pp.404
- 佐々木久美子: “残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ”, 日本農薬学会環境委員会・残留農薬分析検討委員会編, 日本農薬学会・環境委員会, 東京 (2005), pp.9・11, pp.22, pp.85・90
- 豊田正武\*, 穂山 浩: “食品検査とリスク回避のための防御技術”, 食品のアレルギー検査技術・公定法や迅速検査技術の開発状況や動向について, シーエムシー出版, 東京 (2005), pp.160・172  
\*実践女子大学
- 穂山 浩: “家庭の安全・安心”, 食物アレルギーに気をつける, (財) 全国危険物安全協会編, 時事通信社, 東京 (2005), pp.248・249
- 穂山 浩: “栄養・食糧学データハンドブック”, (社) 日本栄養・食糧学会編, 同文書院, 東京 (2006), p.404
- 近藤一成, 内田理一郎\*: “抗アレルギー食品開発ハンドブック”, サイエンスフォーラム, 東京 (2005), pp.131・136  
\*キッコーマン
- 河村葉子: “栄養・食糧学データハンドブック”, (社) 日本栄養・食糧学会編, 同文書院, 東京 (2006), p.401
- 河村葉子: “器具・容器包装の規格基準とその試験法 2006年3月改正対応版”, 厚生労働省医薬食品局基準審査課監修, 中央法規, 東京 (2006)
- 山本茂貴: “獣医公衆衛生学 (第3版)”, 高嶋郁夫・熊谷進編, 文永堂出版, 東京 (2004), pp.106・107, pp.186
- 山本茂貴: “現場必携, 微生物殺菌実用データ集”, 山本茂貴監修, サイエンスフォーラム, 東京 (2005)
- 山本茂貴: “栄養・食糧学 データハンドブック”, 社団法人 日本栄養・食糧学会編, 同文書院, 東京 (2006) pp.394
- 山本茂貴: “獣医感染症カラーアトラス (第2版)”, 見上彪監修, 文永堂出版, 東京 (2006), pp.227・229
- 五十君静信: “微生物殺菌実用データ集”, 食品微生物の基礎知識 細菌, 山本茂貴監修, サイエンスフォーラム, 東京 (2005), pp.13・21
- 五十君静信他: “腸内フローラと感染・免疫”, 乳酸菌を抗原運搬体とするワクチン, 光岡知足編, 学会出版センター, 東京 (2005), pp.149・155

五十君静信：“食中毒検査・診療のコツと落とし穴”，中山書店，東京（2006），pp.28・29，pp.112

五十君静信：“獣医感染症カラーアトラス第2版”，ヒトのリステリア症，見上彪監修，文永堂出版株式会社，東京（2006），pp.201・203

春日文子：“保育保健活動の実際 - 新しい時代の子育て支援を目指して”，食中毒とその対応・予防，高野陽・西村重稀編，全国社会福祉協議会，東京（2006），pp.70・76

高鳥浩介，小菅旬子：“カビとカビ毒”食品検査とリスク回避のための防御技術，伊藤 武，川本伸一，杉山純一，西島基弘，米谷民雄編集，シーエムシー出版，東京（2006），pp.267・273

高鳥浩介：“設計・維持管理手法”微生物による室内空気汚染に関する設計・維持管理基準・同解説（日本建築学会環境基準 AIJES-A002-2005），（社）日本建築学会，東京（2005），pp.48・51

高鳥浩介：“真菌（かび・酵母）”微生物殺菌実用データ集，山本茂貴監修，（株）サイエンスフォーラム，東京（2005），pp.22・30

高鳥浩介：“動物の飼養管理と公衆衛生”愛玩動物飼養管理士 1級第2巻，愛玩動物飼養管理士認定委員会監修，（社）日本愛玩動物協会，東京（2006）

高鳥浩介，村松芳多子：“カビによる変敗”，食品変敗防止ハンドブック，食品腐敗変敗防止研究会編集，（株）サイエンスフォーラム，東京（2006），pp.45・53

高鳥浩介：“各論”動物の感染症 第二版，小沼 操編集，明石博臣，菊池直哉，澤田拓士，杉本千尋，宝達勉，（株）近代出版，東京（2006），pp.143・146

Kikuchi, Y., Kakeya, T., Sakai, A., Matsuda, H., Yamazaki, T., Tanamoto, K., Ikeda, K., Yamaguchi, N., Sawada, J. and Takatori, K.: “Prions. Food and Drug Safety”, ed., Kitamoto, T., Springer-Verlag, Tokyo (2005), p.221

小西良子他：“栄養・食糧学データハンドブック”，社団法人 日本栄養・食糧学会編，同文書院

手島玲子：“食品のアレルゲン性評価と予測法”第一節，モデルシステムによる評価，抗アレルギー食品開発ハンドブック，小川 正，篠原和毅，新本洋士編，Science Forum，東京（2005），pp.221・227

澤田純一：“遺伝子組換え作物の食品としての安全性”，遺伝子組換え作物の研究，第5章，日本農学会，養賢堂，東京（2006），p.89・107

山本美智子，森川 馨他：“これからの薬剤情報 集め方，よみ方，つたえ方”，株式会社中山書店，東京（2005），pp.76・81，pp.392・396

山本美智子，森川 馨他：“医薬品情報学”，株式会社南山堂，東京（2005），pp.257-271

畝山智香子他：“食品安全学”，株式会社同文書院，東京（2005），pp.194・199

豊福 肇他，新山陽子編：“食品安全システムの実践理論”（韓国版），pp.220・234

Council for International Organizations of Medical Sciences（黒瀬光一訳）：“ファーマコジェネティクス - 薬物治療の改善を目指して - ”，第4章 創薬と開発における薬理遺伝学の探究，津谷喜一郎監訳，テクノミック，東京（2005），pp.37・61

井上 達：“別冊医学のあゆみ「レドックス・ストレス防御の医学」，第4章健康医学「環境ストレス応答と生体ホメオスタシス」”，淀井淳司・松尾禎之編，医薬出版（株），東京（2005），pp.194・199

平林容子：“別冊医学のあゆみ「レドックス・ストレス防御の医学」，第4章健康医学「ダイオキシンの生体影響と防護機構」”，淀井淳司・松尾禎之編，医薬出版（株），東京（2005），pp.211・215

平林容子：“リハビリテーションMOOK 13「高齢者のリハビリテーション」，[2]リハビリテーションに必要な老化の基礎知識「老化の分子生物学」”，千野直一・安藤徳彦編，金原出版，東京（2005），pp.8・16

大野泰雄：“摘出ヒト組織，細胞を用いた非臨床研究；ヒト組織，細胞利用の現状と展望；基礎研究”，大野泰雄等編集，エル・アイ・シー，東京（2005）

大野泰雄，泉二奈緒美：“摘出ヒト組織，細胞を用いた非臨床研究；イギリスの倫理委員会”，大野泰雄等編集，エル・アイ・シー，東京（2005）

大野泰雄：“摘出ヒト組織，細胞を用いた非臨床研究；皮膚における薬物代謝と吸収性試験のための皮膚保存法”，大野泰雄等編集，エル・アイ・シー，東京（2005）

小澤正吾：“癌化学療法Update”，西條長宏・鶴尾隆編集，中外医学社，東京（2005）

小澤正吾：“癌治療の新たな試み新編”，西條長宏編集，医薬ジャーナル社，大阪（2005）

簾内桃子：“倫理問題を中心に・必要な考慮と手続き；HS 参加研究施設への倫理申請内容に関するアンケート

結果”, 摘出ヒト組織・細胞を用いた非臨床研究, 大野泰雄・上川雄一郎・杉山雄一・山添 康編, エル・アイ・シー, 東京(2005)

簾内桃子, 大野泰雄: “動態・代謝研究への応用; ヒト組織・細胞利用のメリットおよび肝細胞の調製と培養・保存”, 摘出ヒト組織・細胞を用いた非臨床研究, 大野泰雄・上川雄一郎・杉山雄一・山添 康編, エル・アイ・シー, 東京(2005)

大野泰雄, 紅林秀雄: “摘出ヒト組織・細胞を用いた非臨床研究”, 5・5・1トキシコキネティクス Biphenyl, 大野・上川・杉山・山添編, エル・アイ・シー出版(2005), pp.329・333

紅林秀雄: “摘出ヒト組織・細胞を用いた非臨床研究”, 5・1・2トキシコキネティクス IBP, 大野・上川・杉山・山添編, エル・アイ・シー出版(2005), pp.334・339

Nishikawa, A., Furukawa, F., Kitamura, Y., Kanki, K., Ishii, Y., Kuroiwa, Y., Umemura, T., Hirose, M.: “A new medium-term pancreatic carcinogenesis model in hamsters and screening of chemopreventive agents”, ed.,

Tanaka, T. and Tsuda, H., Carcinogenesis and Modification of Carcinogenesis, Research Signpost, Kelara, India, (2005), pp.97-108

Imai, T.: “Chemically induced thyroid follicular carcinogenesis and related immunohistochemical markers in rats”, In Carcinogenesis and Modification of Carcinogenesis, ed., Tanaka, T., and Tsuda, H., Research Signpost, Kerala, India (2005), pp.109-127

Ogawa, K. \*, Sugiura, S. \*, Hirose, M. and Shirai, T. \*: “Promotion/carcinogenic effects of phenylethyl isothiocyanate, an established chemopreventive agent, in rat and mice urinary bladder”, ed., Tanaka, T. and Tsuda, H., Research Signpost, Kerala, India (2005), pp.253-266

\*Department of Experimental Pathology and Tumor Biology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences

Ema, M. and Hirose, A.: “Reproductive and Developmental Toxicity of Organotin Compounds”, In Metals, Fertility, and Reproductive Toxicity Golub, M.S., ed., CRC Press, Taylor and Francis Group, Boca Raton (2006), pp.23-64